

令和4年度（2022年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新人教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語4技能の修得と国際理解を深める指導の工夫。
- 2、ICT教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
 - (1) ICT機材を用いた授業研究の推進
 - (2) ALを取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
 - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して4段階（そう思う(4点)・だいたいそう思う(3点)・あまり思わない(2点)・思わない(1点)）で10項目のアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

中学・高校共に普通教科および実習教科どちらも昨年とほぼ同様の評価となった。新型コロナ感染もほぼおさまり、昨年度はコロナ前の授業展開に戻したことによって評価の回復につながったと考えたが、今回その傾向が定着して高い評価を維持できたと考えられる。今後もきめの細かい指導を継続していきたい。

クラス担任については、昨年中学高校ともに評価が下がった。特に高校では大きく評価が下がったが、今年はほぼ一昨年と同様の値となり評価の回復ができたと考える。特に「クラス運営（管理）に満足している」の項目は顕著に評価が低下していたが、今回評価の回復が最も大きい項目となった。次に評価が大きく回復した項目は「学校行事には積極的にクラスと関わっている」の項目で担任がクラスの運営にも力を注いでいることが評価され、生徒の満足感が高まっていると考えられる。中学は昨年よりも大きくすべての項目で評価を下げた。これは、特定のクラスで極端に評価が低く、クラス数の少ない中学では平均値に大きく影響したと考えられる。評価の低かったクラスの運営を学校全体の課題として回復に努めたい。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

学校運営15項目・教育内容16項目・生徒指導支援6項目・教員研修資質向上5項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の4段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～Dの頻度を回答合計数に対する割合(%)で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

評価の特に高い項目(3.0以上)は生徒支援の「カウンセリング体制」、教育内容その他の「学校行事」、教育課程の「学習指導要領の対応状況」「教育計画について」、危機管理の「危機管理対応状況」、生徒指導の「家庭との連携状況」、教育内容・その他の「スポーツ・芸術文化」「国際理解」があげられる。逆に評価の低い項目(2.0未満)は教員研修の「校外研修」「新任者のサポート状況」「研修成果の共有状況」、財務関係があげられる。

評価の推移を見ると、昨年度は42の観点項目中、前年度より高くなった項目は13項目にとどまり、28項目は評価が下がったが、今年度は評価が高くなった項目が25項目、下がった項目が17項目となり、24項目の平均値が昨年値を上回った。

評価が最も高まった観点項目は、「学校行事」であり、新型コロナウイルス感染が治まりつつある状況で、体育祭・文化祭・海外修学旅行などがコロナ前の状況に戻ってきたことで数値として現れたと考えられる。次に評価が高まった項目は「会議の有効性」であり、職員会議等で活発な議論が行われるようになり評価が高まったと考えられる。他に「カウンセリング体制」「実践的態度の育成」や「地域交流について」の項目の評価が高まっている。今後もこれらの観点を本校の強みとしてさらに充実していきたい。逆に最も評価が低下した項目は「研修成果の共有状況」「校外研修」であり、研修に参加できていない、また研修の結果が広く教員に還元できていない状況があるのではないかと考えられる。公務が多忙となる中、研修に出る機会が減少している可能性がある。教員のスキルアップは近年教育内容の変化が大きくなっている時代に必須のことであり対策が急がれる。次に評価が低下している項目が「財務関係」の項目であり学園全体の経営状況にも関心を待てるように財務説明会の開催など実施する必要がある。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 2023年10月23日実施

(委員) 校長・副校長・教頭・PTA会長・近隣地区自治会長・近隣地区社会福祉協議会役員
梅花女子大学総務部長

【令和3・4年度実施の教員自己評価について】

- ・先生方の財務関係についての評価が低いので、職員会議等で執行部から説明をしてはどうか。
- ・人権教育に関する評価が昨年と比べ下がっていることが気になる。しっかり対応して欲しい。
- ・建学の精神、愛校心についての意識が高まっていることは大変良いと思う。人権教育の面からもキリスト教主義教育を生かして取り組んでいただきたい。時間的な事もあると思うが卒業生からは礼拝が以前より簡素化されていると聞いた。キリスト教教育を大切にしてもらいたい。
- ・生徒指導で靴の統一ができないのか、登下校する生徒を見る機会が多いが白色の靴が目立ちだした。
- ・通学の生徒さんのお行儀は良い。騒いだり、買い食いほぼ無い。今日も校内に入ったら生徒が挨拶をしてくれて気持ちよかった。

【令和3・4年度実施の生徒評価について】

- ・中学担任の評価がよくない。不平等感、一人一人に公平に接しているという項目で低い様に感じるので、チェックをしておいて欲しい。
- ・生徒の人気投票にならないように注意して結果を分析する必要があると思う。一人一人をしっかりと見て愛情をもって接してあげて欲しい。厳しい指導があっても人間関係が築けていれば評価は下がらないと思う。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充 実	(1)教員間の授業参 観を推進する。 (2)新人教員育成制 度の導入を検討・ 実施 (3) 英語 4 技能の 修得と国際理解を 深める	(1)授業参観期間を設定し、レポート の提出を義務化することで授業 改善を促す。 (2)新人教員にアドバイザー教員を 配置し、授業・生徒指導等でレポ ートを作成し育成をはかる。 新人教員を対象とした教員研修 を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機 会(外部講師での英会話・英検対 策講座)の継続。また、イングリッシュ ホールスペースの利用促進やイングリッシュ シヤワの継続。 外部ネイティブスピーカーと会話出来る 機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート(以後自己評価) 教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交 換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の 値)を 75%以上にする。今年度もコロナ禍に より教員間の授業参観は実施できなかった。 (2)自己評価・教員研修「初心者等、経験の少 ない教員を学校全体でサポートする体制があ る。」の評価は横ばいである改善には至って いない。肯定的評価 70%以上をめざす。 (3) English Communication Day をリベラルア ーツコース対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の 機会を増やした。英検 2 級以上取得者を English Elite Member に認定しネイティブの特 別レッスンの受講をコロナ感染防止で中止して いたが再開した。ハワイの海外修学旅行、国 際専攻の海外留学を再開した。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理 解、異文化交流など国際理解に対する教育活 動を取り入れている。」の肯定的評価を 80% 以上に保つ。	(1)2022 年度 36.6% 2023 年度前半 40.2% (×) 授業参観の回数を増やすこ とで充実を図る。 (2)2022 年度 26.4% 2023 年度前半 26.2% (×) 指導回数や計画的な研修・懇 談の導入など改善し、継続し て取り組む。 (3)2022 年度 76.3% 2023 年度前半 78.6% (△) 海外研修の再開やイングリッシュ ホールスペースの活用法の工夫な ど、英語に触れる機会を増や す取り組みを継続して実施 する。
2. ICT 教 育の推 進	(1)ICT 機材を用い た授業研究の推進 ・ ICT 環境の整備 (2)アクティブラーニング (AL)を取り入れた 授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に 情報収集・校外研修に参加する ・Wi-Fi 環境が整い iPad,chrome book を活用する授業展開や課 題設定を工夫する。 ・校内のメインサーバーを増強 し ICT 環境のさらなる充実を 図る。 (2)ICT 機材を活用しグループワーク やプレゼンテーションを実施し「主体的・ 対話的で深い学び」を実施する。	(1)2020 年度 Wi-Fi を整備、中学全生徒に iPad を、高校は 2022 年から chromebook を 導入し、スタディーサプリを導入した。 ・2022 年度より専任・常勤教諭にノートパソ コンを貸与。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラ ーニングの視点に立つ学び)に向けた教育を行っ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1)2022 年 65.5% 2023 年度前半 64.3% (△) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。 (2) 2022 年 50.9% 2023 年度前半 54.8% (×) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。
3. 危機管 理の徹 底	(1)火災・防災訓練 の強化 (2)不審者への対応 マニュアルの改訂 (3)災害への対応マ ニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施 する。 (2)校務分掌の変更など整理し、 現行の対応マニュアルの見直しを実施 する。 マニュアルを教職員で共有化し対応で きるよう訓練等を実施する。 (3)事故対応マニュアルを教職員で共 有化し対応できるよう研修・訓練 等を実施	(1)2022 年度、3 回実施した。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に 対処する役割分担が明確にされている。」の 肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)2017 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、 消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分 取られている。」の肯定的評価を 80%以上に 保つ。 (3)2019 より年 1 回のアフィリケーター対応のためエ ビペン使用講習およびてんかんの教員研修を 継続している。救急救命講習を体育系 クラブ員、教員対象に実施した。2023 年度前半 校外活動中の救急対応についてマニュアルを作成 した。評価指標は上記(2)と同様	(1)2022 年度 70.9% 2023 年度前半 80.9% (○) 継続して取り組む (2)(3)2022 年度 76.0% 2023 年度前半 80.9% (○) 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管 理マニュアルとし、訓練や見直し を継続的に実施することで 生徒教職員の安全確保を万 全にしていく。

<p>4. カウンセ セリン グ強化</p>	<p>(1)カウンセラーとの連携強化 (2)不登校生徒への対応強化</p>	<p>(1)カウンセラーと教員との懇談を定期的に実施する。 (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。</p>	<p>(1)カウンセラーを含め特別支援委員会を学期1回、定期開催したが、支援が必要な生徒の把握および対応方法が教員間で共有のため頻度を上げる。 自己評価・生徒支援「カウンセリングマインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネーター教員を配置している。教室への登校を目標に保護者、カウンセラーとも連携し対応を強化する。 評価指標は 上記(1)と同様とする。</p>	<p>(1)(2) 2022年度 84.6% 2023年度前半 95.2% (○) 目標を達成できた。今後も特別支援委員会を継続して取り組む。 コロナ禍の影響もあり不登校ぎみの生徒が増加傾向にあるため、対応強化に継続して取り組む。</p>
<p>5.財 務状況 の共有 化</p>	<p>(1)財務説明会の実施 (2)コスト意識の改善</p>	<p>(1)職員会議での財務説明会を実施する。 (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・コピー用紙の使用量減</p>	<p>(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間の徹底を図る。また、職員室の19時自動消灯を継続する。 コロナ感染防止のため換気を重視したためエアコンの使用が増えた。 電子データの配信により会議のペーパーレス化を目指す。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。</p>	<p>(1)2022年度 43.6% 2023年度前半 21.4% (×) 継続して取り組む。 (2)2022年度 27.2% 2023年度前半 21.4% (×) (1)(2)とも昨年10%改善した今年は一昨年に戻り評価が下がった。目標からかけ離れており、継続して継続して重点項目とする。</p>